

0歳から18歳までの一貫教育のまち  
『おおつち一貫教育推進』かわら版  
大槌町は、教育を「つなげる」「ひろげる」まちです。



令和6年4月19日(金) No.19  
文責  
教育委員会学務課 吉田

○「けやき共育」とは

大槌町の0歳から18歳までのすべての子供たちを対象に、特別ニーズ教育の視点で支援することで、「目指す子供の姿(自立・協働・創造)」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指すもの  
今年度も下記の2つの最上位目標で「けやき共育」を推進してまいります。

「けやき共育」の最上位目標

- 1 すべての子供たちが安心・安全に生活・学習ができる  
(すべての子供たちのウェルビーイングの実現)
- 2 すべての子供たちに適切な支援ができる。

特別ニーズ教育の視点で、不登校対策をやっている自治体は、大槌町だけみたいだよ

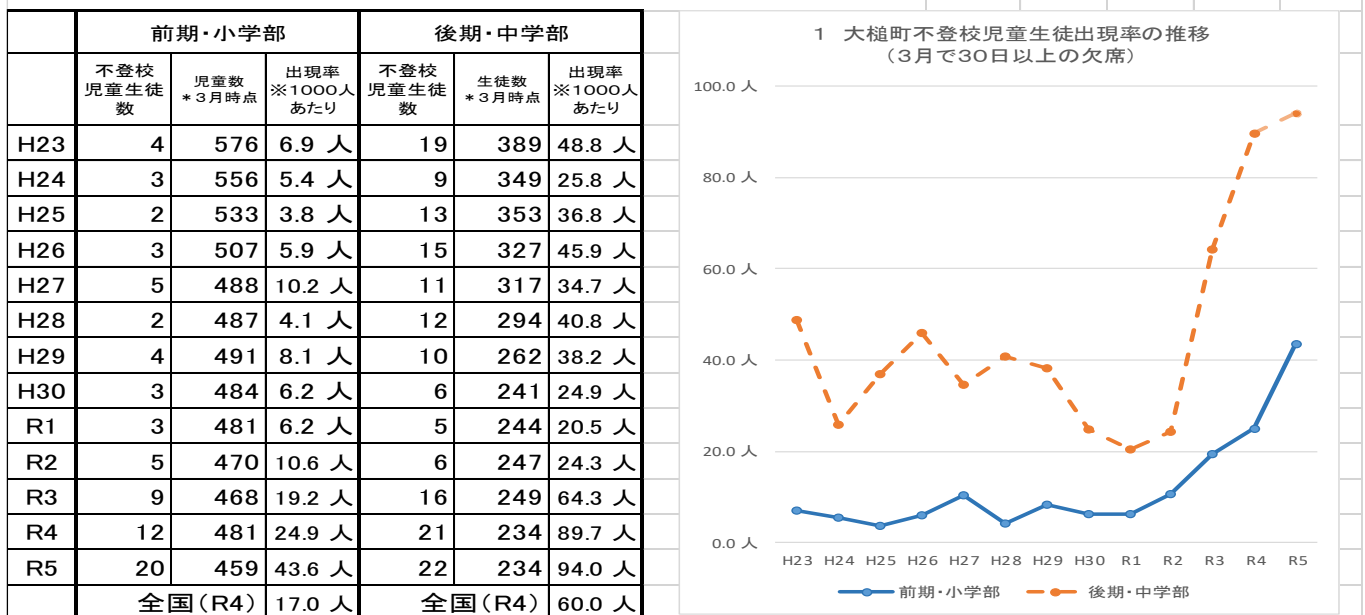


この最上位目標は、不登校児童生徒を出さないための目標となります。

この目標を達成させるためのヒントが、大空小学校初代校長の木村先生の講演で学んだことに沢山盛り込まれていました。その一部を振り返ります。

- 学びの目的は「**その子が その子らしく 育つこと**」それ以外にはありません  
～大人のわたしたちにできることを問い続けませんか～
- 「みんなの学校」とは「**すべての子供達の学習権を保障する**」
- 子供が身に着けたい「**4つの力**」  
**人を大切にする力      自分の考えを持つ力      自分を表現する力      チャレンジする力**
- 学校に困る子をつくらない。困っている子が困らない学校の雰囲気や大人がチームとなって作っていく  
⇒「大丈夫?」「何に困っているの?」「私にできることはある?」  
⇒言葉はかけなくとも、ただそばに寄り添っているだけでも
- 日々の雑談から「子どもの事実に始まり子どもの事実に返す」
- 「新たな発想で」「システムをシンプルに」「チーム力を高める」

1 大槌町不登校児童生徒出現率の推移(3月で30日以上欠席)



昨年度は、前期・小学部の児童の不登校数が大きく増加しました。東京大学附属病院の佐藤精神科医から「不登校になる前に**ハイリスク児童生徒をピックアップして、組織的に支援する**必要がある」という助言をいただいています。

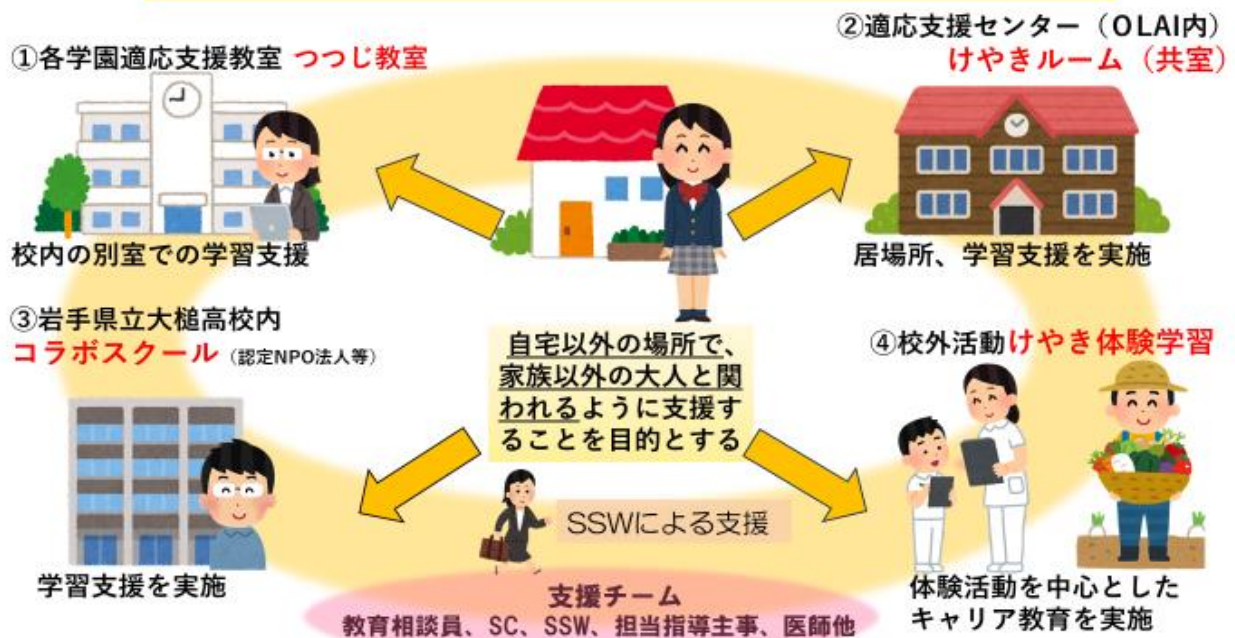
## ○「けやき共育」での新たな事業、更に内容を充実させる事業紹介

- ・特別支援教育支援員1名増員(町内各学園合計7名に)
- ・けやきルーム(こどもセンターOLAI)に支援員を新たに常駐 ※支援員兼けやき体験学習コーディネーター  
⇒学園に登校できない児童・生徒の居場所、16歳からのけやき教室(けやきルームと同様)の開設
- ・けやき体験学習(年2回から年7回実施)、けやき表現活動(年5回)※自由表現のワークショップ
- ・視察研修 天童市(单元別自由進度学習)、福島県大熊町立学び舎夢の森(個別最適な学び)  
名古屋市立矢田小学校他(单元別自由進度学習)  
特別ニーズ教育学会の参加
- ・けやき相談会(毎月)※精神科医の相談会、保護者サロン(年3回)

### ○「けやき共育」とリンクさせて

- ・ミライシード「ドリルパーク(AIドリル)」「まるぐランド(発達の特性に応じた学習アプリ)」「スピーキングクエスト(AI学習アプリ)」の導入 ※ドリルパークは大槌町学力調査とリンクして使用できます。

## 大槌町 多様な学びの場の選択肢



## ○「けやき共育」事業始まる 特別支援教育担当者研修会

去る4月11日(木)、特別支援教育エリアコーディネーターの佐々木佳絵先生をお迎えして上記研修会が行われました。佐々木先生からは、「特性のある幼児児童生徒への適切な支援及び円滑な接続について」と題してご講義いただきました。講義の中では具体的な子供の行動を例に、子供の良さをどのように見取るのか考えたり、個別の指導計画の作成のポイントについて教えていただいたりしました。

研修会の後半には、これからの支援における課題や悩みについて参加された先生方で話し合い、佐々木先生にアドバイスをいただくことができました。参加された先生方は個々の児童生徒に合わせた支援の在り方について考えることができました。

